

M 氏邸訪問記(2018.4.11)

1. はじめに

M 氏邸訪問は、[前回訪問](#)の新しいカートリッジとトランスの導入の試聴以来ということになります。今回はその後の進展を確認させていただきました。

2. M 氏邸のシステムの概要

M 氏邸のシステムは前回の訪問時に下記が導入されています。

カートリッジ：MUTECH RM-KANDA 零 (ZERO)

トランス：My Sonic Stage1030

電源タップ：中村製作所 NXP-001

その後の進展としては、すべてのタップへの iPurifierAC の導入と iPurifierAC からアースラインを引いたこと、TMD での接点処理を行ったことです。また、前回のフォノイコライザーは iPhono2 ですが、今回はアキュフェーズの C27 がセットされていました。



3. M 氏邸のシステムの試聴経過

遅れてきた O 氏を待つ間、CD を聴かせていただきましたが、これまでより音がずっと滑らかになり、静寂感が増しているようで、iPurifierAC の効果と思われます。最初のカートリッジはオーディオテクニカの普及クラスの AT33PPG Mk2 がセットされ、お馴染みのバックハウスのベートーベンのピアノソナタ 12 番がかかりましたが、透明感が以前より増しているように感じました。

例によって、盤の聴き比べということで、シュタルケルのバッハのチェロ組曲のフィリップス盤、マーキュリー盤、日本盤がかかりましたが、マーキュリー盤のダイナミズムに良い印象を持ちました。さらにステレオサウンドのリマスター SACD も比較さ

れましたが、アナログに比べると音が平板になるような気がします。

同じ曲で名盤とされているフルニエの盤とカザルスのモノ盤も聴きましたが、それぞれの演奏の個性がよく分かります。

ここでO氏の希望により、カラヤン／ウイーンフィルの蝙蝠のカッティング違いの盤と日本盤がかかりましたが、カッティング違いでも随分音が違うことが分ります。

次にワルキューレの1幕をステレオサウンドのバックアップテープからの最新リマスターSACDを聴いた後、カートリッジをMUTECH RM-KANDA 零 (ZERO) に替え、デッカのオリジナル盤を聴きましたが、やはりアナログのオリジナル盤に分があるように感じました。

さらにO氏の希望でショルティ／ウイーンフィルの薔薇の騎士の米ロンドン盤、SACD、フランス盤を順次聴いていきましたが、米ロンドン盤とフランス盤はそれぞれの味わいがあるようでした。

この後、鬼太鼓座のアナログ盤の他、持参したケネスワイスのゴールドベルクのCD、持参したブルガリアンポリフォニーのCD、メシアンのCD、コルトーのSPからの復刻CDなどが順次かけられましたが、鬼太鼓座の低音の制動もよく効いていること、ブルガリアンポリフォニーとメシアンの不協和音の分離も聴き取れ、コルトーはSPからの復刻ながら生々しい美音であることなどが確認されました。

4. まとめ

iPurifierACの効果は拙宅でも検証済ですが、M氏宅でも同様の効果があり、盤違いの音楽の表情の違いを如実に描き出してくれました。オーディオメーカーによる試聴会でもこういった細かいところまでのデモはなく、貴重な機会を持つことができました。

以上